

令和5年度俳句ポスト第二回入選句



風流のはじめ館

俳句ポスト第二回入選句

子どもの部 37句

一般の部 3句

ゆきだるまであしをつけてうごくかな
 第一小1年 黒田愛津美

さむいあさふとんのしまにすみたいな
 第三小1年 磯崎柊有

ままみててなんかいとべた二十とび
 第三小1年 柏原悠李

こうえんでべにてんぐたけみつけたよ
 阿武隈小1年 関根太陽

はっぱがねさめのほねにみえてきた
 柏城小1年 矢吹遅真

かいだんにあったどんぐりつるつるだ
 白江小1年 二瓶怜那

すべれたよぼくはリンクのペンギンだ
 第一小2年 川村旭大

スイカわりふらふらふらふらしてただけ
 第二小2年 牧野実緒

刈田から刈田へつづく大鳥居
 須賀川市 猪越千代

小鳥くる俳句の街の投句箱
 岩瀬郡鏡石町 塩田和子

内側へ子も輪を作る盆踊
 須賀川市 関根邦洋

第21号

令和6年3月号

投句状況

〈第二回〉
 投句者 2,046人
 投句数 4,577句

HAIKU

あまがえるかさがほしくてないている
 西袋第二小2年 佐浦あさひ

ばあちゃんちほしがきのれんおでむかえ
 阿武隈小2年 花見望乃

きた風にはっぱ一まいしがみつぎ
 阿武隈小2年 南啓太

あきのくもとりのかたちにかわったよ
 柏城小2年 益山那奈

いわし雲空がきれいだ海のように
 白方小2年 半沢紗菜

冬のなべとうふをゆつくりあつくする
 第一小3年 角張朱理

さざんかと犬とわたしがおどってる
 第二小3年 金子真奈

ドブがいが土にもぐるよひっそりと
 西袋第二小3年 佐藤蓮

スキーしてびゅんびゅんとんでサメみたい
 阿武隈小3年 高田淳平

しもばしらふむとブツブツしゃべってる
 阿武隈小3年 橋本翔

すすきがね足をそわそわくすぐるよ
 白方小3年 木船里南

にくずれた大根母の味がする
 白江小3年 鈴木創志郎

雪だるま次の日見たら泣いていた
 西袋第一小4年 関根結叶

じきゆう走いっしょに走る赤とんぼ
 阿武隈小4年 薄井心菜

いわし雲川にきれいにうつつてる
 柏城小4年 小林瑛那

秋の鳥にんじやのようにつぎの木へ
 柏城小4年 御代田漣音

冬休みうかんでは消える俳句かな
 第一小5年 北畠悠惺

よく見える冬の空気のうちみね山
 第一小5年 鈴木陽介

カワセミを双眼鏡でのぞく夏
 第二小5年 橋本茉衣子

流れ星あせつてしまふ数秒間
 柏城小5年 滝田美莉杏

あざやかなおせちに込めた祖母の愛
 第一小6年 小山綸千花

手ぶくろでこわばる体ほぐれてく
 第一小6年 佐藤愛珠

白い息ぼたんもじつとたえている
 第一小6年 澤村悠斗

ナイスポール兄に言われた冬うらら
 第一小6年 中島誠人

自転車で桜トンネル走りぬく
 西袋第一小6年 上野紗愛

自転車で秋の夕日をかけぬける
 大東小6年 溝井雄俐

手におさまる小さな森のえのきだけ
 白江小6年 大塚溜衣

冬りんご切って生まれた赤い耳
 白江小6年 本田悠人

白方の秋の足音すぐそこに
 白方小6年 矢部りりい



春季スポット展 春にとときめく



日本画「萌翠会」の作品を展示しています。

館内のしつらえが春らしい絵画やつるし飾りなどの春の彩りになりました。

足が丈夫になるように



長寿の願い

展示品の紹介



病や災いが去る(さる)



さくらのように可愛らしい女の子に育ちますように



日本画とは、絹や和紙に墨や胡粉、「岩絵具」という顔料を「膠(にかわ)」で練って描くものです。



立雛 前川千帆



桑摘 山口八九子



おひな様 新庄牛歩人

やまぐちほちくし 山口八九子

大正・昭和期の日本画家



こども和文化塾

第二回 さくら 春待ち和菓子教室



あんこの甘い香りと塩漬けた桜葉の香りのなか、和やかに作りました。その後、茶室で須賀川茶道連合会による抹茶もいただきました。



白玉粉も使った薄く伸ばした皮であんこを包んださくら餅



水を加えた薄力粉を温めたホットプレートに楕円形に流し込んで、皮を弱火で焼きます。

一講師 安藤修吾氏(近江屋菓子司)



すかがわ大人塾

第五回 おいしい紅茶部

3/9(土)



煎茶道での紅茶の手前、おいしい紅茶のいれ方を学んだあと、柔らかな風味の和紅茶をいただきました。絶妙なバランスの渋味と旨味が口の中に広がります。



紅茶手前 カップ、ソーサー、水注、瓶掛けなどが並びます。

一講師

平尾貴園氏(煎茶道方円流)

紅茶とホイップクリームをのせたシフォンケーキをいただきました。



言の葉

桜色 さくらいろ

日本人にとって特別な花色。ほのかに色づいた紅色は、紅染(べにぞめ)の中で最も淡い色合いです。この色が誕生した平安時代は山桜が主流。春霞(はるのすみ)のたゆたうなかで望むと淡く薄いピンク色がみえたのでしよう。



美しい声で春を告げる鶯は「春告鳥(はるつづり)」とも呼ばれています。その鶯の羽毛のような、くすんだ黄緑色が優しい色合いです。花札の絵柄としても有名な「梅に鶯」は、取り合わせのよいものの例えです。

鶯色 うぐいすいろ



お知らせ

◇ 俳句ポスト ◇

募集期間 通年
募集方法 投句用紙
選句会 または葉書
年2回
一般の部
子どもの部
学校の部



入選者全員に配布される投句選集です。

オープンギャラリーには入選者の作品が展示されています。



文化振興課 公式 Instagram



風流のはじめ館 HP